



「大ガラス」制作30周年記念 東京大学教養学部美術博物館所蔵品展

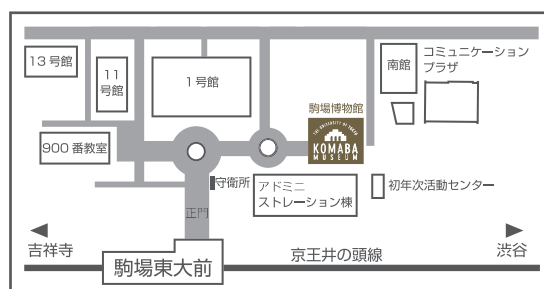
ガラスを透して見えてくるもの

会場：東京大学駒場博物館 1F 南側展示室 / 会期：2010年5月31日（月）～6月25日（金） / 開館時間：10:00～18:00 休館日：土・日・祝日

東京大学教養学部美術博物館に「大ガラス」東京ヴァージョンが展示されてから30年の歳月が過ぎました。オリジナルの作者マルセル・デュシャンは「大ガラス」に入った偶然によるひび割れを作品の要素として肯定したといえます。そのような彼の態度から、ガラスは年月の経過のなかでしだいに変容していくその姿をも作品であると考えられています。

「複製の意味を積極的に認めたデュシャンにあっては、レプリカは一般の名画の模写とはまったく異なる意味をもつ。とりわけ大ガラスについてはそのひとつひとつが独自の生を歩むといってよく、それは一面、デュシャンが1923年に制作を中断したままで現在、フィラデルフィア美術館にあるオリジナルの「影」であるとともに、またそれ自体一個の作品でもある。」横山正『「大ガラス」レプリカ』『美術手帖』、1979年10月号

と、制作の発起人となった横山正氏が述べたように、この「大ガラス」東京ヴァージョンは様々な展覧会の展示品に囲まれ、独自の生を歩んできました。30年の年月を経て次第に風化の兆しも見えてきています。本展は、当館が所蔵している制作時の書類・図面・写真などから、「大ガラス」東京ヴァージョンが作られた過程を紹介するものです。



東京大学駒場博物館 2010年度 展覧会予定

- ・3月29日（月）～6月25日（金） 所蔵品展（1F 展示室）「美術博物館所蔵品展 古瓦・古鏡」
- ・5月10日（月）～6月25日（金） 所蔵品展（2F 展示室）「自然科学博物館所蔵品展（1）」
- ・7月17日（土）～9月20日（月） 特別展「自然エネルギーの世界 ―未来を拓くテクノロジー―
- ・10月初～12月初 特別展「真空の科学と技術」（仮称）

